

平成 28 年度富山県衛生研究所研究成果発表会プログラム

日 時 平成 28 年 11 月 18 日 (金) 15 : 00 ~ 17 : 00
場 所 富山明治安田生命ホール (富山市宝町 1 丁目 3-10)

- 1 開会挨拶 (15 : 00 ~ 15 : 05)
所長 滝澤 剛則
- 2 富山県衛生研究所の概要 (15 : 05 ~ 15 : 15)
次長 上出 功
- 3 講 演 (15 : 15 ~ 16 : 00)
「新興・再興感染症の対策と課題」 (P1~2) 所長 滝澤 剛則
- 4 研究成果発表
 - (1) 染色体検査の正常と異常 (P3~4) (16 : 00 ~ 16 : 20)
がん研究部 主任研究員 高森 亮輔
 - (2) 食物アレルギーについて
～富山県における食物アレルギー物質を含む食品の検査体制～ (P5~6)
(16 : 20 ~ 16 : 40)
化 学 部 研 究 員 安川 和志
 - (3) 有機リン系農薬の曝露と生活環境要因 (P7~8) (16 : 40 ~ 17 : 00)
環境保健部 副主幹研究員 中崎 美峰子
- 5 閉 会 (17 : 00)
次長 上出 功

○所長講演の概要

「新興・再興感染症の対策と課題」

所長 滝澤 剛則

多数の犠牲者を出した中東呼吸器症候群の終息が韓国で宣言され、西アフリカで猛威を振るったエボラ出血熱の公衆衛生上の緊急事態宣言が、WHOにより解除されました。世界を震撼させた感染症は峠を越えたように見えますが、ジカ熱は流行を拡大しつつあり、国内では麻しん患者が増加しています。変化する感染症の現状と地方衛生研究所の役割について紹介します。

○研究成果発表の概要

「染色体検査の正常と異常」

がん研究部 主任研究員 高森 亮輔

当所に依頼される染色体検査の件数は、年々増加しています。羊水染色体検査件数の増加は、日本での新型出生前検査が臨床研究として導入されたことによる影響が考えられます。マスコミ等の報道がなされた平成24年度から顕著に増加しています。染色体検査の基本や染色体検査特有の事例、検査の限界などについて報告します。

「食物アレルギーについて、 ～富山県における食物アレルギー物質を含む食品の検査体制～」

化学部 研究員 安川 和志

食物アレルギー物質を含む食品の検査は、食物アレルギー患者の健康被害を未然に防ぐため、表示義務のある「特定原材料（卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに）」の使用が食品に正しく表示されているかを監視することが目的です。本発表では、食物アレルギーについての解説と富山県における食物アレルギー物質を含む食品の検査体制について紹介します。

「有機リン系農薬の曝露と生活環境要因」

環境保健部 副主幹研究員 中崎 美峰子

家庭園芸や街路樹の病虫害防除にも使用される有機リン系農薬について、人での曝露指標として、尿中に排泄される代謝物を分析したところ、農作業等にかかわりのない一般の人からも、ごく微量の代謝物が年間を通して検出されることがわかりました。今回は、この代謝物の検出状況と、生活環境要因との関連について、報告します。